

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	商学研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 内部からの進学者のみでなく、広く学外入学者、内部・外部からの留学生、他研究科からの入学者を受け入れる。	→学内外を対象として春学期・秋学期に各2回ずつ開催している入試説明会の告知方法の多様化、参加人数の増加。	A	A	B	A	A
2. 定員充足率を高める。	→充足率。	B	B	B	B	B
3. 専門職業人の養成を教育目標のひとつとして教員が意識を共有する。	→教育コンテンツや卒業生のキャリア等についての情報共有の促進とそのための機会提供。	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学内外を対象として、2010年度、2011年度、2012年度は4回、2013年度は5回、大学院入学説明会を開催した。商学研究科の掲示板やウェブサイトで大学院入学説明会の開催を告知し、研究科委員会において教員にも学生への周知を依頼している。2012年からは全学の大学院入試説明会にも参加した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2010年度から2013年度までの4年間、計17回の入学説明会に110名の参加者を得た(平均6.5人)。2012年度から参加した全学の大学院入試説明会は2012年度3名、2013年度2名と低調であった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 商学研究科への進学指導と広報を強化するため、商学研究科紹介パンフレットの作成・配布、進学説明会の充実、広報手段の多様化について具体的な作業を進めている。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学内外を対象として、2010年度、2011年度、2012年度は4回、2013年度は5回、大学院入学説明会を開催した。商学研究科の掲示板やウェブサイトで大学院入学説明会の開催を告知し、研究科委員会において教員にも学生への周知を依頼している。2012年からは全学の大学院入試説明会にも参加した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2014年度入学者数は前期課程で定員の47%(14/30)、後期課程で20%(1/5)であり、いずれも2013年度より低下した。前期課程の定員充足率が最も高かったのは2011年度の73%(22/30)であり、2010年度からの5年間平均では57.3%(86/150)であった。後期課程の定員充足率は2011年度から2013年度の3年間は80%(4/5)と最も高く、5年間平均では60%(15/25)であった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 商学研究科への進学指導と広報を強化するため、商学研究科紹介パンフレットの作成・配布、進学説明会の充実、広報手段の多様化について具体的な作業を進めている。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教員は、当然ながら専門職業人の養成が教育目標の一つであるという意識を共有している。ファカルティ・ディベロップメント活動の一環として、教育コンテンツや卒業生のキャリア等について各分野ごとに情報交換を行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ファカルティ・ディベロップメント研究会の開催回数は、2009年度2回、2010年度2回、2011年度1回、2012年度は単独1回、共催3回、2013年度は単独2回、共催2回であり、原則として各回1名の講師を招き、報告・討論を行った。研究会のテーマは研究・教育にかかわる様々なものが設定された。2012年度に大学院独自の委員会が設置され、ファカルティ・ディベロップメント研究会の開催回数が増加したことは一定の成果と考えられる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か ファカルティ・ディベロップメント活動の一環として、教育コンテンツや卒業生のキャリア等の情報共有のより一層の促進を図ること。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【商学研究科】		前期/後期課程	単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	30	30	30	30	30	・5/1現在
		後期課程		5	5	5	5	5	
指標2	志願者総数	前期課程	人	36	34	28	30	20	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		3	5	4	4	1	
指標3	合格者数	前期課程	名	22	25	17	20	16	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		2	4	4	4	1	
指標4	入学者数	前期課程	名	18	22	15	17	14	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		2	4	4	4	1	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	1.2	1.1	0.9	1.0	0.7	・5/1現在 ・志願者÷入学定員
		後期課程		0.6	1.0	0.8	0.8	0.2	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	0.68	0.66	0.68	0.65	0.57	
		後期課程		0.34	0.48	0.58	0.72	0.60	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	22.2%	13.6%	20.0%	11.8%	28.6%	・5/1現在 ・一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		50.0%	75.0%	75.0%	100.0%	100.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	60	60	60	60	60	・5/1現在
		後期課程		20	15	15	15	15	
指標9	在籍学生数	前期課程	名	46	44	41	35	33	・5/1現在
		後期課程		7	8	11	12	9	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	76.7%	73.3%	68.3%	58.3%	55.0%	・5/1現在
		後期課程		35.0%	53.3%	73.3%	80.0%	60.0%	